

平成24年度

公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果

平成25年8月

広島市公立大学法人評価委員会

公立大学法人広島市立大学の各事業年度における業務実績の評価方法及び基準について

1 法人による自己評価

年度計画の記載事項ごとの実施状況を以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、実績報告書に記載の上評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
a	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
b	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
c	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「b」とすることができる。
d	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

年度計画の小項目及び大項目ごとの自己評価についても 同様とする。

2 評価委員会による評価

小項目評価

ア 「中期計画の達成に向けて、各事業年度の業務を順調に実施しているかどうか」という観点から、法人による自己評価を踏まえつつ、年度計画の内容の妥当性も含めて、小項目ごとに以下の5段階により評価する。

評価の記号	実施状況の説明
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

イ 評価委員会の評価が法人による自己評価と異なる場合は、その理由等を示すものとする。

大項目評価

小項目評価を踏まえ、大項目ごとに以下の5段階により評価するとともに、特筆すべき事項等があればその旨のコメントを記載する。なお、評価の記号ごとに以下の評点を付す。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。	5
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。	4
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。	3
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。	2
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。	1

全体評価

大項目ごとに以下の評価比率を配分し、大項目評価の評点を加重平均（評点×評価比率を合計）した結果を基に評価する。また、法人による実績報告書の記述等を踏まえ、中期計画の実施状況に係るコメントを記載する。

大項目	評価比率
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	20%
2 学生への支援	10%
3 研究	15%
4 社会貢献	15%
5 国際交流	10%
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	15%
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	15%

評価の基準	評価の記号等	
4.5 < X	S	法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3.5 < X 4.5	A	法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2.5 < X 3.5	B	法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1.5 < X 2.5	C	法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
X 1.5	D	法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

Xは大項目評価の評点×評価比率の合計

公立大学法人広島市立大学 平成 24 年度業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。

評価コメント

法人化後 3 回目となる平成 24 年度の年度評価は、過去 2 回と同様、全体として中期計画で想定していた以上の優れた成果をあげたといえる。

中期計画期間 6 年のうち、前半の 3 年間で当該年度をもって終了したことになるが、この間、教育機関として最も重要な「学生募集」と「就職」が順調に推移し、このトレンドを見ると、法人化後の入学生の質は年々向上し、また、学部教育の充実も計画以上に進んでいる。全体として、「学生を中心に据えた」見直し及び改善の好循環が随所に見られ、教育担当者の真摯な努力の跡がうかがえる。学生の優れた資質を引き出し、学生に対するきめ細かい継続的な支援が実現されている。

当該年度は、学部キャンパスに移転した平和研究所の教育・研究・社会貢献の各分野における活性化が目立ち、新所長の就任とともに、今後の一層の充実が期待される。また、大項目で B（計画どおり実施）となった「研究」分野についても、法人化の準備段階からの 4 年間のトレンドをみると、明らかにそれ以前とは異なり顕著に向上してきており、ここでも法人化の効果が見られる。ただ、評価委員会としては昨年度と同様に、大学スタッフの研究ポテンシャルに期待し、更なる高みを目指す努力を待つことにしたい。

広島市立大学の運営制度は、法人化に伴い、大学全体として戦略的対応が可能なシステムに移行し、人事運営を始め戦略的課題に対し、学部の枠を越えて全学的な調整と意思決定による方式が定着し、その実を挙げてきている。また、財務内容の改善に関しても、自己収入の増加に努める一方、管理経費の削減に地道に取り組み、予期どおりの健全で大きな成果をあげている。

大学執行部に課せられた今後の課題としては、この意思決定システムの特徴をいかし、中期計画期間内に実現すべき残された課題に取り組むとともに、大学が置かれているグローバルな環境変化を踏まえ、次期中期計画をにらんだ将来構想を念頭に置いた長期的取組を開始すべきと考える。第一期中期計画期間の主要課題としては、全学共通教育・特色ある教育・学部専門教育等のカリキュラムの充実と、教育環境の整備・学生支援制度の充実等に取り組まれ、さらには留学生の受入れ体制の整備等が考えられているが、第二期の主要課題は、これらの成果を踏まえ、国際化と高度実務化を見据えた大学院各研究科の位置付けの見直しと強化であろう。また一方で、業務の経過が順調であるがゆえに、大学のリスク危機管理にも一層の配慮が望まれる。

広島市立大学の理念にふさわしい「市民の誇り」となる大学を目指し、広島の「知の拠点」となる継続的な取組を今後も期待したい。

組織、業務運営等に関する改善事項等について

組織、業務運営等に関し、特に改善を勧告すべき点はない。

全体評価（評点）

大項目名	評価の記号 (大項目評価)	1 評点 ()	評価比率 ()	×	評価の記号 (全体評価)
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 教育	A	4	20%	0.8	
2 学生への支援	A	4	10%	0.4	
3 研究	B	3	15%	0.45	
4 社会貢献	A	4	15%	0.6	
5 国際交流	A	4	10%	0.4	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A				
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置		A	4	15%	0.6
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	B				
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A	4	15%	0.6	
計				2 3.85	A

1 「評点」は「評価の記号（大項目評価）」と連動する。S = 5点、A = 4点、B = 3点、C = 2点、D = 1点

2 「全体評価の記号」はこの数値（× の計）と連動する。

全体評価の記号	S	A	B	C	D
× の計 (= X)	4.5 < X	3.5 < X 4.5	2.5 < X 3.5	1.5 < X 2.5	X 1.5

項目別評価（総括表）

評価項目		評価の記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置		
1	教育	A
	教育内容の充実	
	ア 全学共通教育	A
	イ 特色ある教育	B
	ウ 学部専門教育	B
	エ 大学院教育	A
	教育方法の改善	
	ア 授業内容及び授業方法の改善	A
	イ 学習環境及び学習支援体制の整備	B
	ウ 成績評価システムの整備	B
	積極的な広報と学生の確保	
	ア 積極的な広報	A
	イ 学生の確保	B
	教育実施体制の整備	
	ア 教職員の配置等	B
	イ 教育環境の整備	A
	ウ 芸術情報の利用環境の整備	B
2	学生への支援	A
	学習支援	A
	日常生活支援	B
	健康の保持増進支援	-
	就職支援	A
	課外活動支援	B
	経済的支援	A
	留学生支援	B
3	研究	B
	研究活動の活性化と成果の普及	
	ア 研究活動の活性化	B

評価項目		評価の記号
	イ 研究成果の普及及び還元	B
	研究体制の強化	B
4	社会貢献	A
	生涯学習ニーズへの対応	A
	「産学公民」連携の推進	/
	ア 地域産業界との連携	B
	イ 国、地方自治体等との連携	A
	ウ 学術機関及び研究機関との連携	B
	エ 小中高等学校等との連携	A
	社会連携センターの機能の充実	/
	ア 社会連携センターの体制整備	-
	イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援	B
	ウ 研究成果、学内資源等の活用	B
	エ 学生の育成	A
5	国際交流	A
	海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開	A
	留学生への支援体制の充実	B
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	1 運営体制	A
	2 人事	-
	3 事務処理	B
第4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	1 自己収入の増加	A
	2 管理経費の抑制	B
第5	自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	-
第6	その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	B
	1 施設及び設備の適切な維持管理等	B
	2 安全で良好な教育研究環境の確保	B

項目別評価

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 2 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標	第 2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 <u>1 教育（大項目）</u>		<p>大項目評価</p> <p>中期計画に掲げる重点取組項目である「全学共通教育の充実」を始めとして、教育に関する様々な取組を実施した。</p> <p>特に、全学共通教育については、学生に、読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業に昨年度と同様多数の学生が参加した。また、これまでの、全学共通教育委員会の設置（平成 22 年度）、カリキュラムの改編（平成 23 年度）に加え、平成 24 年度に全学共通教育専門委員会を設置したことにより、カリキュラムを適宜見直し、改善していく仕組みが完成した。</p> <p>また、大学教育のグローバル化の推進が求められる中、外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、国際学部及び芸術学部における外国語系科目「CALL 英語集中」の実施に加えて、情報科学部における新規科目「e ラーニング英語」の開設、情報科学研究科における「組込みシステム開発プロジェクト特論」の英語による実施並びに大学院生及び大学院進学予定の学部生を対象にした英語研修の実施に取り組んだ。</p> <p>さらに、参加した教員から高い評価を得た FD（Faculty Development：教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。）研修会を実施したほか、学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するためのティーチングアシスタント制度の全学への導入や平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するための平和研究所の大学敷地内への早期移転を完了した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	〔評価理由〕 教育全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 教育関係全般で、非常によく頑張っている。	A
教育内容の充実 全学共通教育では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するとともに、グローバル化や情報化の	教育内容の充実 <u>ア 全学共通教育（小項目）</u> (ア) 自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、初年次教育において、特定の学術分野を定めず多様な問題につい	科目「基礎演習」の全学実施 科目「基礎演習」の実施結果の評価、科目内容の見直し	<p>小項目評価</p> <p>自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、「基礎演習」を全学で実施したほか、1 年生全員を対象に全学共通系科目に関するアンケート調査を実施した。</p> <p>平成 23 年度に引き続き、学生に、読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知の</p>	a	〔評価理由〕 全学共通教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 アンケート調査を実施し、	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>進展等時代の潮流に対応できる能力を身に付けさせる教育を行う。</p>	<p>て少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目を開設する。</p> <p>(イ) 学生に、読書や美術鑑賞、映像鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を実施する。</p> <p>(ウ) 外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、外国語教育の充実を図る。</p> <p>(I) 全学共通教育のあり方について、全学的視点から検討し、その結果をカリキュラム等に反映させる仕組みを構築する。</p>	<p>「いちだい知のトライアスロン」事業の実施、事業内容の見直し</p> <p>「英語応用演習」新テキストの教育効果の検証結果を踏まえたテキストの見直し</p> <p>「CALL 英語集中」の改善、検証</p> <p>情報科学部において「eラーニング英語」を時間割に組み込んで実施</p> <p>全学共通教育専門委員会（仮称）の設置</p> <p>全学共通教育に関する学生・教員を対象としたアンケート調査の実施</p>	<p>トライアスロン」事業を実施した。また、「いちだい知のトライアスロン」ウェブサイトのリニューアル等による広報の強化、及び学生が投稿した良質な感想レポートを表彰する「コメント大賞」の充実を図った。「コメント大賞」については、選考の客観性を高めるために選考担当者を増員するとともに、学生の参加意欲を高めるために入賞者数を 7 名から 10 名に増やした。このような事業内容の充実により、昨年度同様、多くの学生が本事業に参加した。</p> <p>【参加学生数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアスロン参加学生数：433 名（スタートアップコース 431 名、チャレンジコース 2 名） （平成 23 年度：439 名（スタートアップコース 435 名、チャレンジコース 4 名）） ・出張講座参加学生数：111 名（平成 23 年度：87 名） ・語学センター映画上映会参加学生数：223 名（平成 23 年度：200 名） ・図書貸出冊数：21,366 冊（平成 23 年度：21,547 冊） ・感想レポート数：821 件（平成 23 年度：931 件） <p>既存科目の「CALL 英語集中」（時間割に組み込まず、講義の合間に自由に受講）では、十分な学習効果が現れない学生が増加する傾向にあった情報科学部において、「eラーニング英語」を開設し、時間割に組み込んで実施した結果、学習効果が高まり、TOEIC スコアにプラスの影響があった。</p> <p>全学共通系科目、外国語系科目及び全研究科共通科目の教育課程及び授業科目の新設及び改編に関する事項を審議する「全学共通教育専門委員会」を設置した。これにより、全学共通教育のあり方について全学的視点から検討し、その結果をカリキュラム等に反映させる仕組みを構築することができた。</p> <p>以上のように、参加学生数、参加学生の読書冊数及び映画鑑賞作品数が昨年度と同様、高い水準を維持した「いちだい知のトライアスロン」事業の実施や、「eラーニング英語」の開設による外国語教育の充実など、全学共通教育の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>		<p>それに基づいて改善するというサイクルができており、良好なスパイラルアップが図られている。</p>	
<p>「国際平和文化都市」を都市像とする広島市の設立した公立大学法人が設置す</p>	<p><u>イ 特色ある教育（小項目）</u></p> <p>(ア) 平和に関する教育を推進するため、平和研究所が全学の平和関連講義等に積</p>	<p>平和研究所の教員が全学の平和関連講義等に参画</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>平和に関する教育を推進するため、全学共通系科目である広島・平和科目（5 科目）について、平和研究所の教員 5 名が 4 科目（平成 23 年度：2 科目）を担当したほか、夏期集中講座「HIROSHIMA and</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>特色ある教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることか</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>る大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、学生が国際性を養う機会の充実を図る。</p> <p>学部専門教育では、各学部の理念と専門分野の特色に対応した効果的な専門教育を行う。</p>	<p>極的に参画する。</p> <p>(1) 国際性を養うため、学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p> <p>a 夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の充実を図る。</p> <p>b 平和記念式典やピースキャンプ（国内外の平和記念式典参列者のために大学運動場内に開設するキャンプサイトをいう。）等多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促す。</p> <p>c 学生が国際機関や国際的 NGO 等の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p> <p>ウ 学部専門教育（小項目）</p> <p>(ア) 学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、学部専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した新教育課程について、教育内容と成果に関する学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>b 情報科学部では、平成 19</p>	<p>受講者アンケート結果等を踏まえたカリキュラムの内容及び講義担当者の決定</p> <p>異文化に触れることができる行事の学生への情報提供</p> <p>国際的に活躍する者を講師とする講演会の開催</p> <p>学生・教員に対するアンケート結果の分析、課題の把握及びアンケート結果の活用に係る検討</p> <p>学生に対するアンケート調査の実施</p> <p>医用情報科学科の新設</p>	<p>PEACE」を、同研究所の教員 3 名が担当した。</p> <p>学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、受講者及び教員へのアンケート調査の結果を踏まえたカリキュラム内容の見直しを行い、「広島戦後の復興」に関する講義を加えることにした。また、次年度の講義担当者等を決定した。</p> <p>多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促すため、1 月に、教職員を対象として異文化に触れることができる行事の調査を実施し、その結果に広島市が実施している関連行事の情報を加え、ウェブサイト及び学内掲示により学生に情報提供した。</p> <p>学生が国際機関や国際的 NGO 等の国際分野の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、6 月に国際交流協会の人材事業部長を、7 月には WWF (World Wildlife Fund) の気候変動オフィサーを招いて「公開国際協力講座」を実施するなど、講座を 3 回開催した。</p> <p>以上のように、特色ある教育を充実するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>ら、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>平和研究所教員が「広島・平和科目」を担当し、充実させたことは、広島市立大学の教育の充実の上で、極めて大切である。</p> <p>これからどのような効果が出るか期待したい。</p>	
			<p>小項目評価</p> <p>学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり国際学部及び情報科学部において学部専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>国際学部では、平成 23 年度の卒業生を対象として新教育課程の教育内容と成果について実施したアンケートの結果を分析した。学生の満足度は概ね高かったが、語学教育の更なる充実を求める意見があった。このため、次年度以降の検討課題とすることとした。また、1 月に、卒業学年の学生を対象としたアンケート調査を実施した。</p> <p>情報科学部では、平成 24 年度入学生を対象として実施したアンケート結果等を踏まえ、情報工学科、知能工学科、システム工学科及び医用情報科学科の四学科一括募集を継続することにした。また、就職活動を控えた 3 年次生を対象として、企業などの実務者を講師としてプロジェクトマネジメント（企業での活動や問題</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>引き続き改善されてきている。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>年度（2007 年度）に導入した情報工学、知能工学、システム工学の三学科の一括募集及び学科配属方法等について学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>また、多様化した学生への効果的な教育を実現するため、「PDCA」サイクルを機能させながら継続的に教育活動の改善に取り組む。</p> <p>c 芸術学部では、芸術の持つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付けさせるため、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」の充実を図り、学科・領域を越えた総合的な教育を行う。</p>	<p>に伴う一括募集の再評価及び学科配属方法等の見直し</p> <p>専門教育科目と融合したキャリア形成支援科目の開講 卒業生が就職した企業等にヒアリング、アンケート調査を実施</p>	<p>解決のためのプロジェクトを円滑に実施するための知識）について学ぶキャリア形成支援科目「企業活動とプロジェクトマネジメント」を開設した。</p> <p>以上のように、学部専門教育を充実するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
<p>大学院教育では、それぞれの専門分野における優れた研究能力と高度な専門知識に加えて、学際的視野と国際性を身に付けさせ、国際社会や地域の発展に貢献できる研究者及び高度専門職業人を養成する。また、広島の高専教育研究機関としての存在価値を明確に示すため、「平和</p>	<p>エ 大学院教育（小項目）</p> <p>(ア) 学際的視野と国際性を身に付けさせるため、大学院における共通教育のあり方について検討し、大学院全研究科共通科目の見直しを行う。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的技能を身に付けた学生を養成するため、大学院専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学研究科では、専門</p>	<p>新規科目の開設に向けた検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>大学院における共通教育のあり方について、平成 24 年度に設置した全学共通教育専門委員会において、新規科目の開設に向けた検討を行い、平成 25 年度から「科学技術と倫理」の開設を決定した。学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的技能を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり大学院教育の充実に取り組んだ。</p> <p>「平和学」の構築に向け、既存のカリキュラム等の見直しにより「平和学」の学位（博士）授与のためのカリキュラムを整備した。また、平成 25 年度に開設予定の「ロシア政治外交論」を、英語による履修が可能な「平和学」科目として追加した。</p> <p>情報科学研究科では、組込みソフトウェア関連科目のモデルカリキュラムについて、その成果を客観的な視点から評価するため、平成 23 年度に学識経験者等で構成する外部評価委員会から受け</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>大学院教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>実践に力点を置いた大学院教育を充実させている。外部有識者による評価を取り入れるなど見直しと改善のサイクルが活用されている。</p>	A

中期目標	中期計画	平成24年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
学」の構築を実現する。	<p>基礎科目の見直しを行う。</p> <p>b 情報科学研究科では、学部カリキュラムとの連携を図り、学習課題を複数の科目を通して体系的に履修するモデルカリキュラムを提示し、その履修による教育効果を評価する。また、論文執筆、学会発表等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等高度専門職業人に必要な能力を身に付けさせるため、教育内容の充実を図る。</p> <p>c 芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するため、保存科学・文化財学に関する授業科目「文化財保存学特講」を新設し、段階的に拡充を図る。</p> <p>(ウ) 全学的な協力体制を整備し、「平和学」の構築を実現する。</p> <p>a 平和研究所と国際学研究科が連携し、「平和学」のカリキュラムを確立するとともに、「平和学」の学位(修士、博士)を授与する。</p> <p>b 「平和学」のカリキュラムが、留学生に対しても魅力あるものになるよう、英語による講義の充実を図る。</p> <p>教育方法の改善</p> <p>各学部及び研究科</p>	<p>組込みソフトウェア関連科目のモデルカリキュラムによる教育効果の評価、改善</p> <p>プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の強化のための教育内容の充実</p> <p>「文化財保存学特講」の実施</p> <p>「平和学」の学位(博士)授与のためのカリキュラム整備</p> <p>英語による履修が可能な「平和学」科目の追加、科目内容の充実に係る検討</p>	<p>た評価を踏まえ、「組込みシステム開発プロジェクト特論」の講義を英語で実施したほか、講義内容についても改善を行った。また、大学院生及び大学院進学予定の学部生を対象とした集中英語研修の実施や、学会発表を奨励するための学外研究活動旅費等に係る補助金給付制度の創設など、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力等の強化に取り組んだ。</p> <p>芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するための「文化財保存学特講A」を、5月、6月、9月に集中講義として実施した。この講義では、九州国立博物館における絵画、書跡、漆等の保存修復などを通じて最新の文化財研究や保存修復技術に触れ、大学院生の文化財保存に対する理解を深めた。</p> <p>以上のように、専門分野において優れた研究能力と実践的な技能を身に付けた学生の育成を図る優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	ア 授業内容及び授業方法の		小項目評価	a	〔評価理由〕	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>の教育目標を実現し、学生にとって魅力ある授業を提供するため、授業内容や授業方法の改善を図る。</p> <p>また、学生が自主的かつ主体的に学習に取り組むことができるよう、学習環境や学習支援体制を整備する。</p> <p>さらに、授業科目</p>	<p><u>改善（小項目）</u> 本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、授業アンケートの実施、セミナーの開催等の FD 活動（Faculty Development：教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。）を積極的に行う。</p> <p><u>イ 学習環境及び学習支援体制の整備（小項目）</u> (ア) 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。 (イ) インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習ができるよう、また、学生のみならず市民に対しても学習機会の提供ができるよう、授業、公開講座等様々な教育研究活動をデジタルアーカイブ化し、コンテンツの充実を図る。 (ウ) 学生が自習やグループ学習等のために使用することができるよう、学生ラウンジや自習室等を整備する。</p> <p><u>ウ 成績評価システムの整備</u></p>	<p>学生・教員に対する授業アンケートの実施 授業改善に関する研修会（FD 研修会）の開催</p> <p>きめ細かい学習支援及び相談を行うための教員用マニュアルの作成</p> <p>教育研究活動のデジタルアーカイブ化</p> <p>自習室等のパブリックスペースの整備計画の策定</p>	<p>本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、7 月～9 月に学生及び教員に対し授業アンケートを実施した。また、「初年次教育・学生支援全学研修会」をテーマに授業改善に関する FD 研修会を開催した。</p> <p>この取組のうち、授業改善に関する研修会（FD 研修会）では、前年度（274 名）に比べ参加者が増加（299 名）し、その評価も高く、授業内容及び授業方法の改善に大きく貢献する優れた取組となったことから、「a」と評価した。</p>		<p>授業内容及び授業方法の改善について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕 FD 研修を本格的に活用している。</p>	
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>きめ細かい学習支援及び相談を行うため、学生支援に関する目標、基本方針及び相談窓口等の一般的な項目に加え、在学中の継続的な対応を行うための「学生カルテ」や相談事例等を掲載した教員用マニュアル「学生支援の手引き 2013」を作成した。</p> <p>インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習・復習を可能とする講義のアーカイブ化の試行として、全学共通系科目及び情報科学部専門科目から 1 科目ずつ、計 2 科目について、講義を撮影した動画を講義資料とともにウェブサイトに掲載し、学内者に向けて公開した。</p> <p>他大学のパブリックスペースの整備状況について現地調査を行い、当該調査結果に基づき学生ラウンジ、自習室、喫茶室等の整備計画を策定した。</p> <p>以上のように、学習環境及び学習支援体制を整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 学習環境及び学習支援体制の整備についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕 学生支援について、継続的な対応ができるように工夫されている。この取組に対する評価は「学習支援」の項目で行う。</p>	B
			<p><u>小項目評価</u></p>	b	<p>〔評価理由〕</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>の到達目標と成績評価基準を明示するとともに、学生の学習意欲の向上につながる成績評価システムを整備する。</p> <p>積極的な広報と学生の確保</p> <p>広島市立大学のイメージ戦略を策定し、ホームページ、刊行物等の充実を図ることにより、効果的な広報を行う。また、広島市立大学の建学の基本理念及び使命に沿い、「国際的な大学」及び「市民の誇りとなる大学」として、留学生及び社会人学生の受入れを積極的に進める。</p>	<p><u>(小項目)</u></p> <p>(ア) 成績評価の厳格化と単位の実質化を図るため、GPA (Grade Point Average : 履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。) の導入、履修登録単位数の上限や成績評価基準の見直しを行う。</p> <p>(イ) 芸術学部では、教育効果を測る指標とするため、課題制作作品や入選入賞作品の画像データ等をデータベース化する。</p> <p>積極的な広報と学生の確保</p> <p><u>ア 積極的な広報 (小項目)</u></p> <p>(ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。</p> <p>(イ) オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等において、高校生、高校進路指導担当教員、保護者等にアンケート調査等を行い、その分析結果を広報活動に反映させる。</p> <p>(ウ) 大学院案内の内容を見直すとともに、英語版を作成する。</p> <p>(エ) 地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査等から本学に対するイメ</p>	<p>データベースの作成、試験運用</p> <p>オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等におけるアンケート調査の実施 アンケート結果の分析、分析結果の広報活動への反映</p> <p>ブランドイメージ戦略の構築 シンボルデザイン等の</p>	<p>芸術学部では、「芸術学部課題制作データベース」を試験的に作成し、美術学科日本画専攻において試験運用を実施した。</p> <p>また、過去数年の卒業制作及び修了研究作品の写真資料の収集を開始し、芸術学部、芸術学研究科の優秀賞及び買い上げ作品に担当教員の講評を添えた上で公開するウェブサイトを開設したほか、以下のとおり課題制作作品及び入選入賞作品の画像データ等 (画像及び基礎データ) の集積を行った。</p> <p>【資料収集実績】</p> <p>平成 24 年度の各専攻や分野の課題制作作品及び入選入賞作品の画像データ等の資料収集 (平成 24 年度の集積課題作品データ数 (画像及び基礎データ) の内訳 : 学部計 : 1,929 点、研究科計 : 109 点、総計 : 2,038 点)</p> <p><参考>平成 23 年度の集積課題作品データ数 (画像及び基礎データ) の内訳 : 学部計 : 2,048 点、研究科計 : 99 点、総計 : 2,147 点</p> <p>以上のように、成績評価システムの整備のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した</p> <p><u>小項目評価</u></p> <p>高校進路指導担当教員説明会 (5 月)、プレ・オープンキャンパス (6 月) 及びオープンキャンパス (8 月) において、本学に対するイメージ等についてのアンケート調査を実施した。</p> <p>これらのアンケートでは、公立大学であるということから「まじめ」といったイメージが比較的浸透していることが判明した。国際、情報、芸術、そして平和といったユニークな学部、研究所構成が本学のアピールポイントとなることから、今後、「まじめでユニークな公立大学」としての広報戦略を学内外に強力に打ち出すことを基本方針とした。その際、コミュニケーション・マーク、タグラインに加えて、受験生、保護者、企業など対象別にセールスポイントを表す文言を組み合わせた独自の広報ツールを活用することとした。</p> <p>学長指定研究「本学のコミュニケーションマークマニュアル策定と大学オリジナルグッズの開発」として、コミュニケーションマークの作成、コミュニケーションマークの作成に合わせたタグラインの見直し、コミュニケーションマークをモチーフにした本学オリジナルグッズの検討及び試作品の作製を行った。</p> <p>以上のように、積極的な広報のための取組を計画どおり着実に実施</p>	<p>成績評価システムを整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>b</p>	<p>積極的な広報について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>コミュニケーションマークやタグラインの作成に工夫が見られ、広島市立大学ならではの個性ある取組であることを評価し、また、オリジナルグッズの試作等も評価できる。</p> <p>積極的な広報活動の姿勢は評価できる。</p> <p>A</p>	

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	ージ分析を行い、ブランドイメージ戦略を構築するとともに、タグライン（広告等で用いるキャッチフレーズをいう。）、シンボルデザイン等を作成する。	作成				
	イ 学生の確保（小項目） (ア) 社会人学生について、修学年限、授業料等学生納付金を柔軟に設定できる制度を導入し、社会人が履修しやすい環境を整備する。 (イ) 国際学研究科では、優秀な留学生を確保するため、海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試を実施する。 (ウ) 芸術学研究科では、大学院進学者を確保するため、大学院の教育研究や大学院修了後の進路等についてのガイダンス、大学院研究成果の発表展示会の開催等の取組を進める。	海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試の実施 大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示の実施	したことから、「b」と評価した。			
			小項目評価 国際学研究科では、優秀な留学生を確保するため、6月及び2月に海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試を実施し、西南大学（中国）から1名、西京大学（韓国）から1名が合格した。 芸術学研究科では、以下のとおり、大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示を実施した。 【取組実績】 <大学院ガイダンス> ・7月：学部学生を対象としたプレ修了制作作品のプレゼンテーション（造形計画専攻） ・10月：大学院進学ガイダンス（日本画専攻） ・11月：博士前期課程 芸術理論研究分野説明会 ・12月：「展示演習」（大学院生の展示を学部生に見せる）（日本画専攻） ・1月：学部3年生を対象とした、進路・進学説明会（彫刻専攻） ・随時：進学希望学生を対象とした随時担当教員によるガイダンス（日本画・油絵・彫刻専攻） <芸術資料館における作品展示> ・6月「新収蔵作品展」 ・8月「卒業・修了優秀作品展」において博士前期・後期課程の大学院生の作品を展示 ・1月「博士本申請審査作品展」 ・3月「第15回卒業・修了作品展」において博士前期・後期課程の大学院生の作品を展示 以上のように、学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	〔評価理由〕 学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
教育実施体制の整備 学生の多様化や社会の変化に速やかに	教育実施体制の整備 ア 教職員の配置等（小項目） (ア) 大学の教育目標を実現		小項目評価 学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、以下の取	b	〔評価理由〕 教職員の配置等についての	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
対応するとともに、 広島市立大学の教育 に関する目標を実現 するために必要な教育 実施体制を整備する。	<p>するため、全学的かつ中長期視点から教職員を戦略的かつ機動的に任用し、配置する。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、ティーチングアシスタント(大学院生が教育の補助を行う制度をいう。)、リサーチアシスタント(大学院生が研究の補助を行う制度をいう。)等の教育支援体制を整備、拡充する。</p> <p><u>イ 教育環境の整備(小項目)</u></p> <p>(ア) 学生の多様なニーズ等に的確に対応するため、各附属施設間の連携を強化し、情報共有、施設及び設備の共同利用、イベントの共同開催等に取り組む。</p> <p>(イ) すべての講義室において視聴覚教材が使用できる環境を整備する。</p> <p>(ウ) 平和研究所の教育への参画、平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するため、平和研究所の大学敷地内への移転に取り組む。</p> <p><u>ウ 芸術情報の利用環境の整備(小項目)</u></p> <p>(ア) 芸術資料館の所蔵品をデータベース化するなど、芸術情報を有効に利用することができる環境を整備す</p>	<p>TAの全学部・全研究科への導入</p> <p>RAの導入等に係る検討</p> <p>イベントの共同開催</p> <p>平和研究所の大学敷地内への移転の検討</p> <p>所蔵品のコンテンツの充実</p>	<p>組を行った。</p> <p>平成 23 年度に制定した「広島市立大学ティーチング・アシスタント実施要領」に基づき、全学部・研究科を対象として科目担当教員に TA 配置の要望を調査し、同要領に定める基準を満たす科目に TA を配置した。</p> <p>教員の研究補助を目的とする RA(リサーチアシスタント)制度の導入に当たって、本学の既存の教育研究補助制度であるティーチング・アシスタント、実習補助員及び非常勤助教(実習補助員と非常勤助教は芸術学部及び芸術学研究科の制度)との整合性について整理し、検討した。</p> <p>以上のように、教職員の配置等の取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>TA を本格的に導入している。</p> <p>どれだけの成果が出るかこれからに期待したい。</p>	
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>各附属施設間の連携を強化し、学生の多様なニーズ等に的確に対応するための取組として、6月及び12月に附属図書館及び語学センターにおいて映画上映会を共同開催した。また、芸術資料館で6月に開催した「新収蔵作品展」及び10月に開催した「収蔵作品展 - 華麗なる工芸の世界 - 」では、附属図書館の iPad 端末を来場者に貸し出し、作品の解説を閲覧できるようにするなど、来場者の作品鑑賞を支援した。</p> <p>平和研究所の大学敷地内への移転については、当初「検討」までとっていたものを、平和研究所の教育への参画、平和研究所と各学部及び研究科との連携強化を早期に実現するため、前倒しで実施し、1月に情報科学部棟別館への移転を完了した。</p> <p>以上のように、教育環境の整備について優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>教育環境の整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>平和研究所の教育への寄与を強化したことは大きな成果である。</p>	A
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>新たに作成した芸術資料館の新収蔵作品8点の画像及びデータをウェブサイトに掲載し、芸術資料館収蔵作品データベースのコンテンツを充実させるとともに、研究・教育への活用等のため、増村益城作「乾漆洗朱菊花盤」等25点の工芸作品について高密度デジタル画像撮影を行った。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>芸術情報の利用環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<u>健康の保持増進支援（小項目）</u> 学生の心身の健康の保持増進を図るため、教職員と医務室及び学生相談室との連携を強化するとともに、カウンセラーによる相談時間を増やすなど、医務室及び学生相談室の機能を拡充する。					
	<u>就職支援（小項目）</u> ア 教職員が連携して個々の学生の資質、希望を的確に把握し、指導する体制を整備する。 イ 卒業生による就職セミナー等学生に対する就職支援事業の企画内容を工夫するとともに、学生に対してよりきめ細かい就職関連情報を提供する。	就職指導・支援体制の整備 就職関連情報の学生への提供方法の見直し	<u>小項目評価</u> 就職指導体制を強化するため、事務局の就職支援グループに就職相談員を 1 名増員した。 事前登録した学生に各種セミナー・ガイダンスに関する情報提供を行っているが、登録率が低い情報科学部の学生については、就職活動が活発になる 3 年次生を全員登録させた。 上記の取組により、就職相談を行った学生の数が前年度（882 名）に比べ 16%（143 名）増加したほか、就職セミナー・ガイダンスへの参加学生数が前年度（428 名）に比べ大幅に増加した（645 名）ことから、就職支援に大きく貢献する優れた取組を行ったものとして、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 学生の就職支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 指導体制の強化が功を奏している。	A
	<u>課外活動支援（小項目）</u> 学生のクラブ及びサークル活動、ボランティア活動、自主的な研究、創作及び発表活動を奨励し、支援するための制度の充実を図る。	課外活動支援制度の見直し、制度の充実	<u>小項目評価</u> 学生のクラブ及びサークル活動を奨励し、支援する一環として、学生が主体となって取り組んでいる大学祭の財政的支援の拡充について関係団体等に働きかけを行った結果、大学祭実行委員会への後援会からの補助金が 50 万円増額された。 以上のように、課外活動を支援するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	〔評価理由〕 学生の課外活動を支援するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 今後の実績に期待したい。	B
	<u>経済的支援（小項目）</u> 優秀な学生に対して授業料を減免するなどの特待生制度を導入する。	特待生制度の検討	<u>小項目評価</u> 成績優秀で、かつ、他の学生の模範となる学生に奨学金を給付する「特待生制度」に関する規程を整備し、平成 25 年度に導入することとした。 計画では制度の検討までとしていたが、以上のように制度に関する規程を整備するに至り、学生への経済的支援を早期に実現したことから、優れた取組を行ったものとして「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 学生の経済的支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
	<u>留学生支援（小項目）</u> 留学生の宿舎を確保する	留学生の民間アパート	<u>小項目評価</u> 海外学術交流協定大学から受け入れた特別聴講生（留学生）は入居	b	〔評価理由〕 留学生の支援のための取組	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>3 研究に関する目標</p> <p>研究の活性化を目指し、外部資金の積極的な獲得と活用を努めるとともに、サバティカル制度(教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。)を導入する。また、地域産業の活性化につながる研究、地域課題に関する実践的な研究、平和をテーマとした研究等を重点研究分野として、個性的な研究活動や学内外との研究交流を積極的に展開し、その成果を教育に反映させるとともに、社会に還元する。</p>	<p>ため、学生寮及び教員住宅の有効活用を図るとともに、独立行政法人日本学生支援機構の留学生借り上げ宿舎支援事業、財団法人日本国際教育支援協会の留学生住宅総合補償制度等の活用を進める。</p> <p>3 研究(大項目)</p> <p>研究活動の活性化と成果の普及</p> <p>ア 研究活動の活性化(小項目)</p> <p>(ア) 教員の研究活動を奨励するため、サバティカル制度(教員が一定期間研究に</p>	<p>への入居あっせん 機関保証制度の導入</p>	<p>期間が短期であり、民間アパートへの入居が困難であるため、学生寮及び留学生会館等をあっせんし、その他の留学生には民間アパート等の賃貸情報を紹介することにした。また、広島県留生活躍支援センターによる機関保証制度に加入し、留学生及び教員にこの制度の情報提供を行った。</p> <p>以上のように、留学生の支援のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕 本格的対策が望ましい。</p>	
			<p>大項目評価</p> <p>前年度に引き続き全教員を対象とした外部資金獲得研修会を開催した。科学研究費補助金の申請率、採択率及び獲得金額はいずれも前年度の実績を上回った。</p> <p>また、研究成果の普及及び還元に係る取組として、国際学部においては叢書を発刊したほか、情報科学部及び情報科学研究科においては、研究成果に係る特許出願等の手続件数が、前年度同様の高い水準を維持した。</p> <p>以上のように、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究全般に関する取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
			<p>小項目評価</p> <p>4月、サバティカル制度を導入して、平成25年度の研修者を募集し、決定した。</p> <p>10月、全教員を対象に外部資金獲得研修会を開催し、科学研究費補助金等外部資金の申請率及び採択率の向上を図った。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究活動の活性化を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>の研究者の積極的な参画を促進する。</p> <p><u>イ 研究成果の普及及び還元</u> <u>(小項目)</u></p> <p>(ア) 国際学部及び国際学研究科では、研究成果普及の一環として平成 20 年度(2008 年度)に創刊した国際学部叢書を定期的に刊行する。また、学内競争的資金である特定研究費を活用した共同研究の促進を図り、その成果を国際学部叢書として刊行する。さらに、開学以来刊行しているジャーナル「広島国際研究」をホームページで公開し、幅広く研究成果を社会に還元する。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、研究公開イベントへの出展、特許出願、企業からの技術相談、共同研究等を通じて研究成果を社会に普及し、還元する。</p> <p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催等を行う。</p> <p>(I) 平和研究所では、学術研究成果を大学教育に反映させるとともに、出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会等を通じ、その成果の社会への積極的な普及を</p>	<p>国際学部叢書の年次刊行 「広島国際研究」のホームページ公開</p> <p>研究公開イベントへの出展 特許出願、共同研究を通じた研究成果の社会への普及・還元</p> <p>芸術資料館における卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催</p> <p>出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会、紀要、ニューズレター等を通じた学術研究成果の社会への積極的な普及</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>国際学部及び国際学研究科では、国際学部教員 8 名、情報科学研究科教員 1 名、芸術学部教員 1 名、同非常勤講師 2 名、国際学研究科修了生 1 名の共著により学部叢書シリーズ第 5 巻「Japan's 3/11 Disaster as Seen from Hiroshima -A Multidisciplinary Approach-」を 3 月に発刊した。また、12 月に刊行した学部紀要「広島国際研究」(第 18 巻)の採択論文について、大学リポジトリサイトで公開した。</p> <p>情報科学部及び情報科学研究科では、インテレクチャル・カフェ広島やリエゾンフェスタ 2012 等の研究公開イベントへの出展を行った(出展件数 59 件(平成 23 年度:65 件))。また、JST(独立行政法人科学技術振興機構)、NICT(独立行政法人情報通信研究機構)等の国のプロジェクトの受託研究、共同研究を実施したほか、研究成果に係る特許出願等の手続を行った。</p> <p>芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会を開催した(開催回数 4 回:入場者数計 1,319 名)。</p> <p>平和研究所では、教員の出版活動(出版点数:6 点)や、5~6 月及び 10~11 月に開催した連続市民講座(計 8 回、参加者数:720 名)、7 月に開催した国際シンポジウム(参加者数:180 名)、6 月及び 12 月に開催した研究フォーラム(計 2 回、参加者数:30 名)等を通じ、学術研究成果の社会への積極的な普及を図った。</p> <p>附属図書館では、博士論文等の機関リポジトリ登録を実施した。</p> <p>以上のように、研究成果の普及及び還元のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究成果の普及及び還元についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>アウトリーチ活動が広島市立大学として常識になってきており、大学としてのレベルが向上している。</p>	B

中期目標	中期計画	平成24年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 社会貢献に関する目標 教育研究成果を社会に還元するため、社会連携センターを中心的な窓口として、学外研	<p>図る。</p> <p>(オ) 附属図書館では、教員の研究成果、博士論文等を機関リポジトリ（大学等の研究機関が研究成果を電子データとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。）により公開する。</p> <p>研究体制の強化（小項目）</p> <p>ア 「産学公民」連携につながる研究を推進するため、社会連携センターにプロジェクト研究推進室を設置する。</p> <p>イ 研究費を戦略的に配分できる仕組みを構築する。</p> <p>ウ 平和研究所では、被爆体験の思想化や原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制を強化する。</p> <p>エ 附属図書館では、研究における利便性を向上させるため、専門分野の電子ジャーナルやデータベースの充実を図るとともに、データベース横断検索ソフト等を計画的に導入する。</p>	<p>博士論文等の機関リポジトリ登録の実施</p> <p>日本軍縮学会、日本平和学会等、原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究員活動の促進</p> <p>電子ジャーナル等の収集方針の策定 収集方針に基づく専門分野の電子ジャーナル等の見直し</p>	<p>小項目評価</p> <p>平和研究所では、以下のとおり原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究員活動を促進した。</p> <p>【平成24年度実績：()内は平成23年度実績】</p> <p>著書・論文の発表：計20件(計10件) 科学研究費補助金の獲得：5件(5件) 学会・研究報告等：17件(6件) 学会誌等の編集責任者：5件(4件)</p> <p>附属図書館では、電子ジャーナルの収集基準等を定めた「電子ジャーナル・オンラインデータベース整備の基本方針」を策定し、これに基づき専門分野の電子ジャーナルのトライアルを実施して見直しを行った。</p> <p>以上のように、研究体制を強化するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究体制の強化のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>平和研究所の教員の、著書・論文、学会・研究報告、学会誌等の編集責任で、前年度を大幅に上回っており、引き続き頑張ってもらいたい。</p>	B
			<p>大項目評価</p> <p>中期計画に掲げる重点取組項目である「サテライトキャンパスの設置」や「社会連携センターを中心とした「産学公民」連携の推進」を中心に、計画に掲げる取組を着実に実施した。</p> <p>特に、大学敷地内に移転した平和研究所の移転後のスペースを活用したサテライトキャンパスの設置について、計画では「検討」としていた</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>社会貢献全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>究機関、企業、NPO、地域コミュニティ等との交流及び連携を積極的に推進する。また、広島市の「知」の拠点としての地位を確立するため、提言、施策立案、技術供与等を通じて、地域行政課題の解決及び都市機能の強化に貢献する。さらに、広く市民に生涯学習の場を提供するため、公開講座の充実等に取り組むとともに、広島市職員、小中高等学校教員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>生涯学習ニーズへの対応 (小項目)</p> <p>ア 市民の生涯学習ニーズに対応するため、公開講座の開催、市民講座への講師派遣等に積極的に取り組む。また、リカレント教育(社会人が大学院等で高度な知識、技能を習得するための教育をいう。)を推進するため、社会人講座等の充実を図る。</p> <p>イ 休日、夜間に市民向けの講座等を開催するため、平和研究所等の施設を活用し、市中心部にサテライトキャンパスを設置する。</p>	<p>公開講座の開催、市民講座への講師派遣 改善策の検討・実施</p> <p>サテライトキャンパスの設置に係る検討</p>	<p>ところ、「設置決定」に至った。また、公開講座について、受講者の少なかった講座の開催日を見直す等、改善を行った結果、受講者数が増加した。小学生を対象とした「ひろしまコンピュータサイエンス塾」、中高生を対象とした「芸術学部サマースクール」、情報科学研究科教員が高等学校に出向く体験授業を実施し、小中高等学校等への学習支援に取り組んだ。</p> <p>さらに、本学の英語 e ラーニングプログラムを活用して広島市職員の英語力養成研修を実施し、広島市職員の研修機関としての役割も果たした。</p> <p>そのほか、「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業においては、応募件数、応募総額、採択件数、採択総額ともに前年度実績を上回った。この事業では、地域の公民館における日本語講座やパソコンお悩み相談室のようなプロジェクトを継続的に実施し、学生の育成と同時に地域貢献に取り組んだ。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>以下のとおり、公開講座を開催するとともに、市民講座への講師派遣を行った。</p> <p>国際学部公開講座(11月開催：参加者数 64名)</p> <p>情報科学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演会(11月開催：参加者数 38名) 連続講義(6月、8月開催：参加者数 65名) 高校生による情報科学自由研究(7月、8月開催：参加者数 24名) <p>芸術学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般向け (日本画、油絵、版画、彫刻、金属造形：7月～9月開催：参加者数 100名) サマースクール (日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：7月、8月開催：参加者数 74名) 社会人向け工芸・版画技能講座 (金工、漆、染織、版画：4月～1月開催：参加者数 16名) 	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>「知の拠点」の実態化が進んでいる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>シティカレッジへの講座提供（創作人間：11 月開催：参加者数延べ 73 名） 英語 e ラーニング講座 （7 月～10 月実施：受講者数 57 名、9 月～12 月実施：受講者数 48 名） 以下のとおり公開講座の改善策を実施した。 芸術学部公開講座における受講者の決定方式を「抽選」から「先着順」に変更し、受講者の利便性向上を図った。また、広報の見直しを行い、電子メールによる申込み等、ウェブサイトを積極的に活用した。 情報科学部公開講座（連続講義）の開催日程を見直し、前年度に受講者数の少なかった「ミニ・オープンキャンパス」の開催日から「プレ・オープンキャンパス」の開催日に変更した。 平和研究所の大学敷地内への移転後のスペースの一部（大手町平和ビル 9 階）にサテライトキャンパスを平成 25 年度中に設置することにした。また、サテライトキャンパスで実施する事業内容及び運営体制に係る検討を行い、これまでに 3,000 人以上の市民が受講している「英語 e ラーニング講座」や、他の市内施設で行っていた公開講座を移設することなど、広島市の公立大学ならではの生涯学習拠点とすることについて検討を行い、10 月の設置を決定した。 上記の取組のうち、公開講座の開催及び市民講座への講師派遣については、開催回数実績及び参加者数実績ともに前年度（受講者数 505 名、開催回数 9 回）と同様、高い水準を保った（受講者数 502 名、開催回数 9 回）ほか、改善した講座についても、前年度（受講者数 222 名）に比べ 33 名増加（255 名）するなど、引き続き質の高い優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>			
	<p>「産学公民」連携の推進 ア 地域産業界との連携（小項目） (ア) 社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に積極的に取り組む。 (イ) 先進的な ICT システムの構築により蓄積されたノ</p>	<p>受託研究・共同研究の推進 技術相談支援等の推進</p>	<p>小項目評価 社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に取り組んだ。また、総務省「西日本地域における ICT を活用した協働教育の推進に関する調査研究に係る請負」事業への参画等、先進的な ICT システムのノウハウ等を企業や地方自治体等に提供した。 【平成 24 年度実績：()内は平成 23 年度実績】 ・受託研究： 件数：16 件（21 件）、 研究費計：13,900 千円（29,537 千円）</p>	b	<p>〔評価理由〕 地域産業界との連携についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>ウハウ等を、技術相談や技術支援等を通じて企業や地方自治体等に提供し、高等教育研究機関としてのリーダーシップを発揮する。</p> <p><u>イ 国、地方自治体等との連携（小項目）</u></p> <p>(ア) 附属機関等の委員への就任、講師の派遣、行政課題の解決や人材育成等のための共同事業の実施等により、国、地方自治体、特に広島市との連携強化に取り組む。</p> <p>(イ) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p> <p>(ウ) 財団法人広島平和文化センターと連携し、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等への学術支援等を行うなど、平和の推進に貢献する。</p> <p>(エ) 財団法人広島市文化財団と連携し、広島市現代美術館との共同事業を行うなど、広島市の芸術振興に貢献する。</p> <p>(オ) 財団法人広島市産業振興センターと連携し、ICTをはじめとした様々な分野での技術支援を行い、広島</p>	<p>附属機関等の委員への就任、講師派遣 行政課題の解決、人材育成等のための共同事業の実施</p> <p>広島市職員等を対象とした研修の実施</p> <p>「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の調査や展示等への学術支援等</p> <p>地域美術館との連携</p> <p>ICT 関連機関への委員就任 ICT 関連講演会への講師派遣、共同事業の実</p>	<p>・共同研究： 件数：14 件（13 件）うち 1 件は補助金、研究費計：29,214 千円（33,709 千円） 以上のように、地域産業界との連携を強化するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p> <p><u>小項目評価</u></p> <p>以下のとおり、附属機関等の委員への就任、及び講師派遣を行った。 【実績：()内は平成 23 年度実績】 広島市等の審議会委員等への就任【119 機関（127 機関）】 講演会への講師派遣【36 件（54 件）】 以下の実績のとおり、行政課題の解決のため、広島市やその他行政機関との共同事業を実施した。 【実績：()内は平成 23 年度実績】 件数：13 件（18 件） 事業経費：5,945 千円（17,197 千円） （内訳） 広島市関係分：受託研究、市政貢献プロジェクト、社会連携プロジェクト（件数：10 件（13 件） 事業経費：2,700 千円（12,982 千円） その他行政機関関係分（広島県、安芸太田町、庄原観光協会、神石高原町）：受託研究、社会連携プロジェクト（件数：3 件（5 件） 事業経費：3,246 千円（4,216 千円）） 広島市研修センターと連携し、広島市職員の英語力養成を目的に、本学の英語 e ラーニングプログラムを活用した研修を実施した。具体的研修内容としては、英語基礎力をアップするための研修（A コース）と 8 月 6 日の平和記念式典に参列する外国からの要人アテンドに対応できる程度の英語力を養成する研修（B コース）の 2 つを実施し、いずれのコース参加者からも高い評価を受けた。 広島市及び広島市関係団体等における ICT 関連機関の委員に就任した（20 機関）ほか、地域自治体及び産業界への技術相談支援並びにイベントへの ICT 活用支援を行った（26 件）。 芸術学部及び芸術学研究科では、以下のように、広島市内及び広島県内のみならず広島県外においても教員主導、学生主導の地域連携プロジェクト 28 件（平成 23 年度：37 件）を実施した。また、「いちだい知のトライアスロン」関連イベントとして、広島県立美術館やひろしま美術館との共催により、一般市民も参加できる公開の講演会、対談及びギャラリートークを開催したほか、蘭島閣美術館（呉市）における展覧会に収蔵作品の貸出しを行った。 【実績】</p>			
				b	<p>〔評価理由〕 国、地方自治体等との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 多岐にわたる活動を行っていること、広島市職員に対する研修に実績を上げていること、平和研究所の市民講座への協力等は評価できる。 外部との連携に意識を持ち、努力をしている。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>市の産業振興に貢献する。</p> <p>(カ) 地域社会等と連携し、地域展開型の芸術プロジェクトを積極的に推進する。</p>	<p>施 地域自治体や産業界への技術相談支援、イベントへの ICT 活用技術支援 地域展開型の芸術プロジェクトの実施</p>	<p>旧日本銀行広島支店での「すべて見せます！広島のアニメーション力展」(4 月)、神石郡神石高原町での「神石高原アートプロジェクト - 仙養ヶ原シンポジウム 2012」(8 月、9 月)、長崎県対馬市での「対馬アートファンタジア 2012」(10 月、11 月)等。 平和研究所では、以下のとおり「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等の学術支援等を行った。 【実績：()内は平成 23 年度実績】 審議機関等の委員等への就任【3 機関(3 機関)】 「広島・長崎講座」への協力【13 講座(10 講座)】 市民向け講座への協力【15 回(6 回)】 以上のように、各学部等において、国、地方自治体等との連携のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
	<p>ウ 学術機関及び研究機関との連携(小項目)</p> <p>(ア) 国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者との共同研究やプロジェクト研究等への参画を推進するとともに、研究交流を通じて、海外学術交流協定大学との連携強化に取り組む。また、関係機関と連携し、公開講座やインターシップ等の充実を図る。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」(平成 21 年度(2009 年度)文部科学省採択事業)を推進し、情報科学、医学、工学の知識を有した人材を育成する。</p> <p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研</p>	<p>共同研究、プロジェクト研究等への参画の推進 研究交流を通じた海外学術交流協定大学との連携強化 関係機関との連携による公開講座、インターシップの充実</p> <p>平成 23 年度における試行実施及び評価結果を踏まえた大学院カリキュラムの本格実施</p> <p>広島市現代美術館にお</p>	<p>小項目評価</p> <p>国際学部及び国際学研究科では、海外学術交流協定大学である西京大学(韓国)との間で「ワンアジアシンポジウム」を開催し、研究成果を叢書として発刊するなど、国内外の研究者との共同研究およびプロジェクト研究に参加した(共同研究 52 件、プロジェクト研究 12 件)。さらに、広島市関連団体や他の自治体等が主催する公開講座・講演等(54 件)に、教員が講師として参加した。 情報科学部及び情報科学研究科では、研究科科目として「脳情報工学実習」及び「医用画像診断支援特論」を開設したほか、平成 23 年度に続き、広島大学及び広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」(平成 21 年度(2009 年度)文部科学省採択事業)を実施した。 芸術学部及び芸術学研究科では、地域の美術館との連携強化の一環として、広島市現代美術館において卒業・修了制作展を開催した。 平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、以下のとおり共同研究への学外研究者の積極的な参画を促進した。 【共同研究会等の実施】2 件、9 回(平成 23 年度：1 件、4 回) 【共同研究への参画】2 件(平成 23 年度：1 件) 【ワークショップ】3 件、他大学からの参加 5 名(平成 23 年度：1 件、9 名) 以上のように、各学部等において学術機関及び研究機関との連携強化に向けた取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価し</p>	b	<p>〔評価理由〕 学術機関及び研究機関との連携強化についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成24年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>究科では、卒業修了制作展の開催等を通じ、広島市現代美術館等の地域の美術館との連携強化に取り組む。</p> <p>(I) 平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流を積極的に推進する。</p> <p><u>エ 小中高等学校等との連携（小項目）</u></p> <p>(ア) 市内の小中高等学校に対する学習支援、教員のリフレッシュ教育（大学、大学院等の高等教育機関が、職業人に職業上の知識、技術を新たに修得させることを目的とした事業をいう。）等に取り組む。</p> <p>(イ) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。（再掲）</p> <p>社会連携センターの機能の充実</p> <p><u>ア 社会連携センターの体制整備（小項目）</u></p> <p>多様化する「産学公民」連携のニーズに迅速に対応し、効果的に事業を実施するための組織体制を整備す</p>	<p>ける卒業修了制作展の開催</p> <p>共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流の推進</p> <p>市内の小中高等学校に対する学習支援の実施</p> <p>広島市職員等を対象とした研修の実施</p>	<p>た。</p> <p><u>小項目評価</u></p> <p>小学生に情報科学の先端に触れる機会を与える「ひろしまコンピュータサイエンス塾」、中高生を対象とした「芸術学部サマースクール」などを実施し、学習意欲に富む小・中学生及び高校生に対する学習支援・教育活動を行い、参加した児童・生徒から高い評価を得た。さらに、情報科学研究科においては、研究科教員と高等学校教員が連携し、教員が高校に出向いて情報科学に関する一連の講義を行う体験授業を実施し、連携先高校（10校）から高い評価を得た。広島市研修センターと連携し、広島市職員の英語力養成を目的に、本学の英語eラーニングプログラムを活用した研修を実施した。具体的研修内容としては、英語基礎力をアップするための研修（Aコース）と8月6日の平和記念式典に参列する外国からの要人アテンドに対応できる程度の英語力を養成する研修（Bコース）の2つを実施し、いずれのコース参加者からも高い評価を受けた。</p> <p>以上のように、小中高等学校等との連携を強化するための取組を計画どおり着実に実施し、いずれの取組も参加者等から高い評価を得たことから、優れた取組を行ったものとして「a」と評価した。</p>			
				a	<p>〔評価理由〕</p> <p>小中高等学校との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>体験授業等活発な活動に対し好評を得ており、評価できる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>る。</p> <p>イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援（小項目）</p> <p>(ア) 展示会への出展やメールマガジンの配信等様々な広報活動を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行う。</p> <p>(イ) 「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催する。</p> <p>(ウ) 学外の関係機関等と連携した教育研究活動等を支援する。</p> <p>(I) 地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援する。</p>	<p>展示会への出展等の広報活動、技術相談の実施</p> <p>セミナー、フォーラム等の開催 改善策の検討・実施</p> <p>学外研究機関との教育研究活動等の支援</p> <p>社会連携プロジェクトの公募、取組支援</p>	<p>小項目評価</p> <p>以下のとおり、展示会への出展等の広報活動や技術相談の実施等を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行った。</p> <p>【実績】 インテレクチャル・カフェ開催（於：広島） イノベーションジャパン 2012 出展（於：東京） 中国地域さんさんコンソ新技術説明会（於：東京） 信用金庫合同ビジネスフェア（於：広島） 技術シーズ発信会（於：岡山） 技術シーズ発信会（於：広島） 社会連携コーディネーター、産学連携コーディネーターによる技術相談の実施 （随時：平成 24 年度相談件数：75 件（平成 23 年度相談件数：54 件）</p> <p>以下のとおり、「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催した。また、広島市立大学の地域貢献事業発表会における広島市との連携事業の講演について、広島市立大学の教員と広島市の関連部局の職員がそれぞれの立場から取組内容等を紹介するよう改善した。</p> <p>【実績：() 内は平成 23 年度実績】 リエゾンフェスタ 2012 の開催 〔来場者数：約 150 名、56 機関（約 130 名、50 機関）〕 広島市立大学の地域貢献事業発表会 〔来場者数：約 200 名 市長及び両副市長来場（約 210 名）〕 「ひろしま医工連携・先進医療イノベーション拠点事業（代表：広島大学）」等、学外研究機関との教育研究活動等の支援を行った。また、「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業」に参加し、知的財産に関する広域連携ネットワークの構築に努めた。 地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援した。</p> <p>【実績：() 内は平成 23 年度実績】 応募件数：12 件（9 件） 応募総額：10,584 千円（7,487 千円） 採択件数：8 件（8 件） 採択総額：3,349 千円（4,570 千円）</p>	b	〔評価理由〕 「産学公民」連携の強化や社会貢献の推進のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 国際交流に関する 目標 海外学術交流協定 大学との人材交流を 積極的に展開すると ともに、留学生への支 援体制の充実を図る。	<p><u>ウ 研究成果、学内資源等の活用（小項目）</u> 知的財産の創出に取り組むとともに、学内資源等を適切に管理し、最大限活用するため、社会連携の基本方針を定めた「社会連携ポリシー」を策定する。</p> <p><u>エ 学生の育成（小項目）</u> 「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施し、学生に自主性や問題解決能力を身に付けさせる。</p> <p><u>5 国際交流（大項目）</u></p>	<p>知的財産の創出の推進</p> <p>「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業の実施</p>	<p>（採択件数 8 件のうち、1 件 700 千円は、市政貢献プロジェクトとして実施）</p> <p>以上のように、学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>以下のとおり、知的財産の創出に取り組むとともに、7 月に教職員を対象とした知的財産に係るセミナーを開催した。</p> <p>【実績：()内は平成 23 年度実績】 特許出願：14 件（14 件） 商標出願：3 件（0 件） 審査請求：1 件（3 件） 特許登録：5 件（5 件） 特許を受ける権利の譲渡：2 件（2 件）</p> <p>以上のように、研究成果、学内資源の活用等のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 研究成果、学内資源等を活用するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 特許の譲渡実績を評価したい。</p>	B
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>以下のとおり、「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施した。</p> <p>【実績：()内は平成 23 年度実績】 応募件数：8 件（6 件） 応募総額：725 千円（548 千円） 採択件数：8 件（6 件） 採択総額：537 千円（500 千円） うち 1 件は「学生による市政貢献プロジェクト」として採択（100 千円）</p> <p>上記実績のとおり、応募件数、応募総額、採択件数及び採択総額ともに前年度実績を上回っており、学生の自主性や問題解決能力の向上に大きく貢献したこと、また、同プロジェクトにおいて採択した事業には、地域の公民館における日本語講座やパソコンお悩み相談室等、複数年継続している事業が多いことから、学生の育成に加え、継続的に地域にも貢献する優れた取組を実施したものとして「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕 学生の育成について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 事業を通じて、学生に地域への思いが芽生えてきていると評価できる。</p>	A
			<p><u>大項目評価</u></p> <p>全学を挙げてグローバル人材育成事業に早急に取り組むため、専任の特任教員を長とする国際交流推進センターを平成 25 年 4 月に設置し、国際交流推進体制を整備することとした。また、協定の締結に向けた交渉を進めた結果、国連平和大学（コスタリカ）とは学術交流協定を、上海大学（中国）とは学生交流に関する覚書を締結することができた。さらに留学生支援の分野では、海外学術交流協定校を対象にした推薦入試の</p>	a	<p>〔評価理由〕 国際交流全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>実施、外務省の留学生受入れプログラムの実施、日本学生支援機構の奨学金の活用及び留学生ボランティアアドバイザー制度の創設等の取組を進め、受入れ学生数の増加を果たした。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p><u>海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開</u> (小項目)</p> <p>ア 各学部の特徴を十分に生かし、海外学術交流協定大学の学生にとって魅力ある受入校となるための取組を進め、受入学生数を増やす。</p> <p>イ 学生及び教員のニーズを探りながら、魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結に取り組み、派遣学生数を増やす。</p>	<p>受入学生増加のための対応策の具体化・実施</p> <p>協定締結に向けた相手校との具体的な交渉</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>平成 24 年度秋季入学試験から国際学研究科において海外の学術交流協定大学を対象とした推薦入試制度を導入した。また、平成 25 年度からセンター長に専任の職員(特任教員)を置く「国際交流推進センター」を新たに設置することとした。</p> <p>11月に国連平和大学(コスタリカ)と学術交流協定を締結したほか、2月に上海大学(中国)と学生交流に関する覚書を締結した。</p> <p>また、学術交流協定校である西南大学(中国)及び国際関係学院(中国)と、派遣及び受入れのアンバランスを解消させるための短期留学制度を導入した。</p> <p>国際交流推進センターの設置の決定は、計画を大きく上回る本学の国際交流を推進する上での重要な取組である。また、国連平和大学及び上海大学との学術交流協定等の締結は、派遣学生数増加に資するとともに、国連平和大学との学生・教員の交流を通じて本学における平和に関する教育の推進にも大きく貢献する取組である。これらを優れた取組を実施したものとして「s」と評価した。</p>	s	<p>〔評価理由〕</p> <p>海外学術交流協定大学との人材交流について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>協定を締結するなどの努力は認めるが、今後の具体的な実績を期待する。</p>	A
	<p><u>留学生への支援体制の充実</u> (小項目)</p> <p>ア 国際的に魅力ある留学生受入れプログラムを整備し、独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度等の奨学金を申請する。</p> <p>イ 国際交流に関する専任スタッフの配置等により、留学生の進学、就職相談等の留学生支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ 留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行うため、アドバイザー制度</p>	<p>留学生受入プログラムの実施・奨学金の申請</p> <p>留学生アドバイザー制度等の整備</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>公益財団法人青年海外協力協会による外務省事業「アジア太平洋地域及び北米地域との青少年交流」(キズナ強化プロジェクト)の、「平和構築人材育成/震災からの復興の取組を学ぶ」プログラムで、学生(ASEAN 諸国等、14名)の受入れを行った。また、本学の夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」及び西京大学短期留学プログラム「韓国文化・言語短期特別研修プログラム」について、(独)日本学生支援機構の「平成 25 年度留学生交流支援制度」の奨学金を申請し、前者が採択された。</p> <p>留学経験のある学生を中心に、留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行う「留学生アドバイザー」を創設し、平成 25 年度から運用を開始することにした。</p> <p>以上のように、留学生への支援体制の充実を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>留学生への支援体制の充実を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>留学生アドバイザーの今後の活動に期待したい。</p>	B

中期目標	中期計画	平成24年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第3 業務運営の改善 及び効率化に関する 目標	<p>等を整備する。</p> <p>エ 海外に留学した学生の体験談等をデータベース化し、海外留学希望者に情報を提供する。</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置（大項目）</p>		<p>大項目評価</p> <p>認証評価機関への対応及び事務引継等への活用も想定した年報（公立大学法人広島市立大学の概要）の作成や平和研究所の大学敷地内への移転に合わせた事務組織の見直しを行った。また、事務処理の点検を定期的実施し、より精度を上げるためのツールとして、個別の事務マニュアルを試行的に作成した。</p> <p>以上のように、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>業務運営の改善及び効率化全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>改善が難しい大学運営の中で、非常によく頑張っている。</p> <p>合理化やマニュアル化をうまく行っており、評価できる。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>年報（公立大学法人広島市立大学の概要）を作成し、広島市公立大学法人評価委員会における基礎資料に使用するとともに、本学ウェブサイトに掲載した。</p> <p>以上のように、年度計画を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>運営体制について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>法人化に際し構想した運営体制を活用し、非常によくやっており、モデルケースになっているといってもよい。</p>	A
1 運営体制に関する 目標	1 運営体制（小項目）					
機動的な運営体制の構築	機動的な運営体制の構築					
理事長（学長）がリーダーシップを発揮できる意思決定システムの構築等により、全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的な大学運営を行う。	<p>ア 理事長を補佐する理事の役割分担を明確にするとともに、理事長及び理事を支援する事務組織体制を整備する。</p> <p>イ 理事長、理事、学部長等が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みを構築する。</p> <p>ウ 全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的に人員配置、予算配分等を行う仕組みを構築する。</p> <p>エ 教職員が一体となって企画・立案・実施に参画する大学運営の仕組みを構築す</p>					

中期目標	中期計画	平成24年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>社会に開かれた大学づくりの推進</p> <p>積極的な広報や大学運営への学外有識者の参画により、社会に開かれた大学づくりを推進する。</p> <p>監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等</p> <p>公立大学法人の監査制度を活用し、法人業務の適正処理の確保及び大学運営の改善に努める。</p> <p>2 人事に関する目標</p> <p>広島市立大学の教育研究、社会貢献等を活性化させるため、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な</p>	<p>る。</p> <p>社会に開かれた大学づくりの推進</p> <p>ア 積極的な広報</p> <p>(ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。(再掲)</p> <p>(イ) 全学的視点から積極的な広報を行うための体制を整備する。</p> <p>(ウ) 大学の「年報」を作成する。</p> <p>(エ) 刊行物のデータベースを構築し、ホームページ等で公開する。</p> <p>イ 大学運営への学外有識者の参画</p> <p>理事や経営協議会の委員に学外有識者を積極的に登用する。</p> <p>監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等</p> <p>ア 会計監査人の協力を得て、監事を中心とした実効性のある監査体制を整備する。</p> <p>イ 監査結果を大学運営の改善に反映させる仕組みを構築する。</p> <p>2 人事(小項目)</p> <p>柔軟な人事制度の構築</p> <p>ア 特任教員等の任用制度を導入する。</p> <p>イ 裁量労働制を導入する。</p> <p>ウ 兼職・兼業に係る許可基</p>	<p>「年報」の作成</p>				

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
人事制度や多面的な教員評価制度を構築する。	<p>準を新たに作成する。 教員評価制度の構築</p> <p>ア 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。</p> <p>イ 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。</p>					
<p>3 事務処理に関する目標</p> <p>業務内容の変化に柔軟に対応し、定期的な業務改善や事務組織の見直し等に取り組むことにより、効果的かつ効率的な事務処理に努める。</p>	<p>3 事務処理（小項目）</p> <p>事務処理の内容及び方法について、定期的な点検を実施し、必要に応じて改善を行う。</p> <p>業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。</p> <p>全学的な課題等について組織横断的に取り組むための体制を整備する。</p>	<p>事務処理の内容及び方法に係る点検の実施</p> <p>事務組織の定期的な見直し</p>	<p>小項目評価</p> <p>通常の全ての事務について、概要及び処理手順を示したマニュアルを作成し、事務の点検が可能になる仕組みを構築することとし、試行的運用を行った。</p> <p>国際交流推進体制の強化及び平和研究所の大学敷地内への移転による事務体制の効率化及び効率的な事務処理等を図るため、事務組織について見直しを行った結果、以下のとおり、平成 25 年度に組織改正を行うことにした。</p> <p>国際交流推進センターの設置 平和研究所の事務室を廃止し、総務室（教育研究支援グループ）へ移管 情報科学部及び情報科学研究科で独自に行っていた一部の就職支援業務を教務学生室に移管し、就職支援の事務体制を一元化</p> <p>以上のように、マニュアル作成による事務点検が可能となる仕組みの構築や事務組織の見直し等、効果的かつ効率的な事務処理を行うための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>事務処理の改善等を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>実態に合わせ事務組織の改革を行っている。</p>	B
<p>第 4 財務内容の改善に関する目標</p>	<p>第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）</p>		<p>大項目評価</p> <p>自己収入の増加を図るための取組及び管理経費の抑制を図るための取組を計画どおり着実に実施した。</p> <p>こうした中、多様な収入の確保のための取組では、社会人向け工芸及び版画技能講座における「夏期特別講座」の開催及び学生寮の利用されていない駐車場の一時貸付及び自動販売機の増設により、学内施設貸付収入及び自動販売機貸付料収入等、総額 2,859 千円の収入増を達成した。</p> <p>このほか、学内施設における照明の LED 化等による管理経費の抑制を図った。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>財務内容の改善全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
<p>1 自己収入の増加</p>	<p>1 自己収入の増加（小項目）</p>		<p>小項目評価</p>	a	<p>〔評価理由〕</p>	A

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>教育研究環境を向上させるため、外部資金の積極的な獲得に取り組むなど、自己収入の増加を図る。</p>	<p>外部資金の獲得に取り組むため、外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制を強化する。</p> <p>公開講座の拡充や大学が保有する施設、設備、機器、作品等の活用により、多様な収入の確保を図る。</p> <p>授業料等学生納付金をはじめとする業務に関する料金について、他大学の動向や社会経済情勢、法人の収支状況等を考慮した適切な料金設定を行う。</p>	<p>多様な収入の確保</p> <p>授業料等の料金設定の検証</p>	<p>以下のとおり、収入の確保を図った。</p> <p>社会人向け工芸・版画技能講座において、当該講座の受講者を対象にした「夏期特別講座」を開始した結果、8名が受講し、211千円の受講料収入を得た。</p> <p>学生寮の利用されていない駐車場の一時貸付を行い、駐車場使用料収入は前年度に比べ437千円増加した。</p> <p>自動販売機を5台増設した結果、自動販売機貸付料収入は前年度に比べ1,983千円増加した。</p> <p>業務に関する料金設定について、他大学の動向等を踏まえた検証を行い、平成25年度も同額の料金設定とすることにした。</p> <p>上記の取組の結果に加え、学内施設貸付収入は前年度に比べ228千円増加し、総額2,859千円の収入増に結び付いたことから、自己収入の増加に資する優れた取組を実施したものととして「a」と評価した。</p>		<p>自己収入の増加について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>額は多くはないが、大きな努力をしている。</p> <p>収入確保の多様化と全体としての年間目標の設定を期待する。</p>	
<p>2 管理経費の抑制</p> <p>全学的視点から、業務運営の効率化、人員配置の適正化等に努め、管理経費の抑制を図る。</p>	<p>2 管理経費の抑制（小項目）</p> <p>ICTの活用による業務の効率化、光熱水費等の節減、教職員一人一人のコスト意識を高めるための研修の実施等により管理経費の抑制を図る。</p> <p>教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化、非常勤教職員も含めた人員配置等について、定期的な見直しを行う。</p>	<p>省エネルギー対策の啓発、管理経費の抑制</p> <p>教職員配置等の見直し</p>	<p>小項目評価</p> <p>以下のとおり、省エネルギー対策の啓発及び管理経費の抑制に取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <p>教職員に対して省エネルギー対策への取組の徹底を周知</p> <p>平成25年度に終了予定であった講義棟、学生会館及び語学センターの女子トイレの照明のLED化及び擬音装置の設置について、平成24年度で工事終了。加えて、各学部棟のホール及び女子トイレの洗面台の照明をLED化するとともに、講堂の女子トイレへの擬音装置を設置する工事を追加実施</p> <p>省エネルギー対策として、8月15日を事務局の夏期休業日に設定し、実施</p> <p>節水対策として、芝生広場への散水に湧水を利用</p> <p>各学部棟ホールの照明の一部をLED化</p> <p>三井物産株式会社との「クラウド・コンピューティングを活用した外灯省エネ実証実験」として外灯の一部をLED化</p> <p>省エネルギー対策として、外灯点灯時間を日没30分前から、日没と同時に変更</p> <p>池の水に雨水を利用</p> <p>電力の一般競争入札を行い、3か年の長期契約を締結</p> <p>国際交流推進体制の強化、平和研究所の大学内敷地への移転による事務体制の効率化及び効率的な事務処理等を図るための見直しを</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>管理経費の抑制を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>地道な努力を積み重ねている。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>第 5 自己点検及び評価に関する目標</p> <p>自己点検、自己評価及び第三者機関による評価を定期的実施することにより、大学運営の改善に努める。また、評価に関する情報を積極的に公開する。</p>	<p>第 5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）（小項目）</p> <p>1 定期的に自己点検及び自己評価を行う体制を整備する。</p> <p>2 自己点検、自己評価及び第三者機関による評価の結果を、大学運営の改善のために活用する仕組みを構築する。</p> <p>3 自己評価及び第三者機関による評価に関する情報をホームページ等で積極的に公開する。</p> <p>4 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。（再掲）</p> <p>5 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。（再掲）</p>		<p>行った結果、平成 25 年度に以下のとおり、組織改正及び教職員の配置等を行うことにした。</p> <p>国際交流推進センターの設置に伴い、国際交流推進センター長として専任の特任教員を配置</p> <p>平和研究所の事務室を廃止し、総務室（教育研究支援グループ）に業務を移管</p> <p>国際学部及び情報科学研究科の助教に任期制を導入</p> <p>保健管理室に専任の特任教員を配置</p> <p>以上のように、教育研究水準の維持向上に配慮しつつ、管理費の抑制のための取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
<p>第 6 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>第 6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置（大項目）</p>		<p>大項目評価</p> <p>大学隣接地の利用について広島市と共同で検討を行い、平時はセミナーハウスとして使用し、非常時には広島市の防災拠点機能を果たす施設の整備を提案した。また、メンタルヘルス講演会の開催、職場巡視等の実施、教職員を対象としたハラスメントの防止に関する講演会の開催等に取り組んだ。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 24 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
1 施設及び設備の適切な維持管理等 快適なキャンパス環境を確保するため、既存の施設及び設備の適切な維持管理と有効活用、機能拡充のための施設及び設備の整備に取り組む。	1 施設及び設備の適切な維持管理等（小項目） 施設及び設備の効率的な維持管理を行うとともに、その利用状況を把握し、有効活用を図る。 教育研究機能の充実を図るため、未利用の大学隣接地へのセミナーハウス、学生寮、留学生受入施設等の新たな施設整備について検討する。	施設・設備の効率的な維持管理の実施 施設整備の検討	<p>以上のように、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p> <p>小項目評価 施設・設備を効率的に維持管理した。 【取組実績】 ・8月：一部運用を開始していた電気錠の本格運用 ・3月：学内施設活用委員会において、学内施設の貸付料や実費徴収額等について検討 広島市土地開発公社が大学拡張用地として保有していた大学隣接地は、同公社の解散に伴い平成 25 年度から広島市が保有することになった。このため、広島市と共同で検討を行い、平時は本学のセミナーハウスとして使用し、非常時には広島市の防災拠点機能を果たす施設の整備を提案した。 以上のように、施設・設備の適切な維持管理のための取組を計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	〔評価理由〕 施設及び設備の適切な維持管理等についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
			<p>小項目評価 計 6 回の職場巡視の実施、メンタルヘルス講演会の開催、学内の喫煙場所の削減（約半減）に取り組んだ。 衛生管理者の増員に向けて、衛生委員会の委員が衛生管理者試験を受験し、3 名（事務局、国際学部、情報科学研究科）が第二種衛生管理者資格を取得した。 定期健康診断、特殊健康診断（年 2 回）を実施するとともに、VDT 作業従事教職員健康診断を実施した。また、教職員がストレスチェックを行うことができるウェブサイトやメンタルヘルスの相談窓口を紹介した。 ハラスメントの防止に関する講演会の実施、ハラスメント相談員用の対応マニュアルの作成のほか、ハラスメントを受けたときの相談先等について記載した学生向けチラシの配布（新入生オリエンテーション時、学年別ガイダンス時）に取り組んだ。 以上のように、安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	〔評価理由〕 安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 着実に取り組んでいる。	B
2 安全で良好な教育研究環境の確保 学生や教職員の安全衛生管理、人権に関する意識の向上を図るとともに、災害等不測の事態に適切に対応できる体制の整備に取り組むことにより、安全で良好な教育研究環境を確保する。	2 安全で良好な教育研究環境の確保（小項目） 災害等不測の事態に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成する。 安全衛生管理に関する研修等を定期的実施する。 定期健康診断等の実施により、教職員の健康管理を適切に行う。 セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するための研修等を実施する。	安全衛生管理研修、職場巡視等の実施 衛生管理者の養成 定期健康診断等の実施 ハラスメントに関する研修の実施				

広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

職名	氏名	現職等	備考
委員長	平澤 冷	東京大学名誉教授	
委員	金田 晋	広島大学名誉教授	
委員	下中 奈美	弁護士	
委員	高橋 正	株式会社広島銀行特別顧問	
委員	最上 敏樹	早稲田大学教授	